

アカムツ

生態的特徴等

【生態】

北海道以南の各地に分布し、主に日本海西南海域の水深 80～150m 層に分布する暖海性種である。

茨城県沖での生態情報は極めて少ないが、産卵期は日本海側では 7～9 月、宮城県沖で 9～10 月とされている。仔稚魚期にはカイアシ類、若魚はオキアミ類やエビ類などの大型甲殻類、成魚は魚類やエビ類を捕食する。

成長は雌雄で異なり、宮城県沖では雄は 1 歳で全長 9 cm、3 歳で 18cm、5 歳で 24cm、10 歳で 33cm、雌は 1 歳で 8 cm、3 歳で 19cm、5 歳で 27cm、10 歳で 41cm となる。成熟年齢は雄で 3 歳、雌で 3～4 歳とされる。

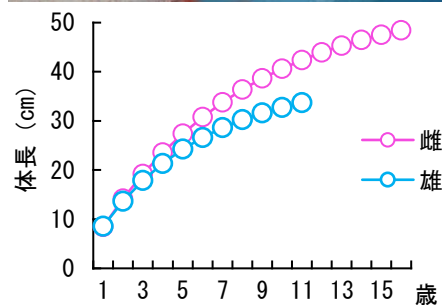


図1 アカムツの成長 (引用より)

【漁法と盛期】

底曳網で漁期（9月～翌年6月）を通して周年漁獲され、他の漁法による漁獲はごく少ない。

【利用】

脂ののった白身の高級魚として、刺身、塩焼きなどで調理される。他県では「のどぐろ」として有名であるが、本県では「のどぐろ」はユメカサゴを指す。

資源水準は中位、動向は横ばい傾向

（漁獲量）暖海性である本種の漁獲量は H26 年までは 5 ト未満であったが、H27 年以降増加し、R 元年には 19 トとなった。その後はやや減少し、R 7 年は 7 トの漁獲となった（図 2）。※なお、アカムツ、クロムツ、ムツをまとめて「ムツ類」として集計している地区もあるが、ほとんどはアカムツであることから、集計ではムツ類をアカムツとして取り扱った。

（水準と動向）資源水準は、アカムツの漁獲の 9 割以上を占める沖合底曳網と小型底曳網（5 t 以上）の漁獲量から計算した CPUE (kg/隻・日) から判断した。水準は「中位」、動向は直近 5 年間の CPUE の傾向から「横ばい」と判断した（図 3）。

水準



動向

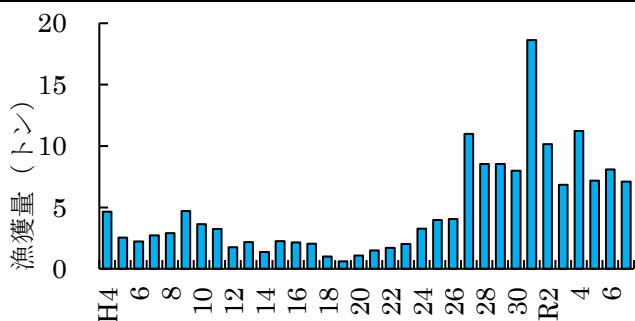
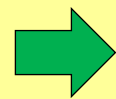


図2 茨城県のアカムツ漁獲量（水試システム、属地）

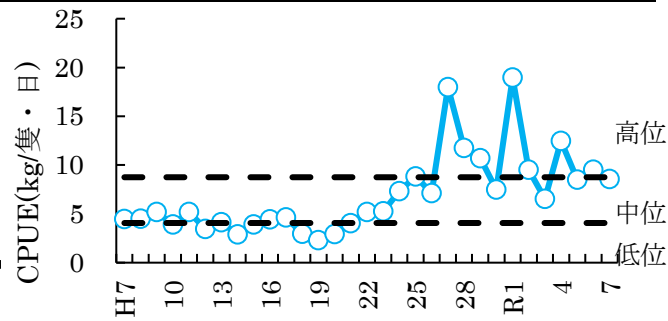


図3 茨城県のアカムツ CPUE (水試システム、沖底+小底 5t 以上、属地)

【全国の漁獲動向】

・全国統計はないが、日本海側では山口県と島根県の漁獲が多い。

評価期間：令和 7 年 1 月～12 月 更新日：令和 8 年 3 月 11 日

引用：水産研究・教育機構水産資源研究所水産技術研究所、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター、山口県水産研究センター（2020）令和 2（2020）年度アカムツ日本海系群の資源評価、水産庁・水産研究・教育機構、東京 18pp、https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2020/trends_2020_02.pdf。
増田義男・時岡 駿・櫻井慎大（2025）宮城県沿岸域におけるアカムツの年齢と成長、東北底魚研究、44、21-28。